

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/07/01

追加利下げなるかRBNZに注目

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↓	豪CPIに注目 予想レンジ: 91.700 ~ 96.200 円	2-3
NZドル/円	↓	追加利下げ観測が浮上 予想レンジ: 80.000 ~ 85.700 円	4-5
ランド/円	↑	SARBの金融政策発表に注目 予想レンジ: 9.700 ~ 10.400 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



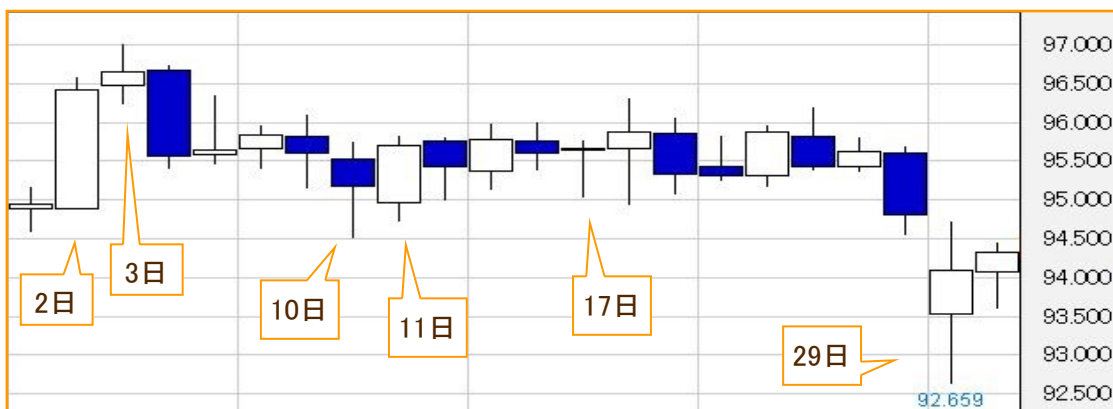
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 6月の推移

6月の豪ドル/円相場は92.659～97.002円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.6%の小幅下落(豪ドル安・円高)となった。

豪準備銀行(RBA)理事会の声明や豪1-3月期国内総生産(GDP)を受けて上昇するも97円が重く、反対にスティーブンスRBA総裁による豪ドル高牽制発言や黒田日銀総裁による円安牽制発言を受けて下押しも94.50円前後で下げ渋るなど、決定打に欠ける中でレンジ相場が継続。しかし、月末にギリシャのデフォルト懸念の高まりを嫌気してリスク回避の動きが強まると、レンジを下抜けて92.659円まで下落した。



四本値

OPEN	94.892
HIGH	97.002
LOW	92.659
CLOSE	94.341

2日	RBAは事前予想通り、政策金利の据え置きを発表。声明文では「豪ドルは一段の下落が必要」「経済成長は長期的な平均を下回っている」「弱い設備投資が民間需要圧迫の主因」「金融政策は緩和的であるべき」とするも、「政策は当面適切と判断」「インフレ率は目標と一致」など市場が事前に期待したほどハト派的な内容でなかったため、豪ドル/円は上昇。予想より弱い米4月製造業受注を受けて豪ドル/米ドル相場でも豪ドル買い・米ドル売りが強まると、96.577円まで一段高となった。
3日	豪1-3月期GDPが前期比+0.9%、前年比+2.3%と予想(+0.7%、+2.1%)を上回る伸びとなった。これを好感して豪ドル/円は上昇。予想を下回る米5月ISM非製造業景況指数を受け、豪ドル/米ドル相場でも豪ドル買い・米ドル売りが強まると、97.002円まで一段高となった。
10日	RBAのスティーブンス総裁が「豪ドルはさらに下落する必要」「持続可能な成長に有益であれば、我々は引き続き追加緩和の可能性にオープンだ」などの見解を示すと、豪ドル売りが強まった。その直後に黒田日銀総裁が「実質実効為替レートでここからさらに円安はありそうにない」などと発言すると円買いが強まり、豪ドル/円は94.521円まで大幅に下落した。
11日	豪5月雇用統計は、新規雇用者数が4.20万人増、失業率が6.0%と、事前予想(1.50万人増、6.2%)よりも大幅に良好な結果になった。これを好感して豪ドル/円は95.80円付近まで上昇した。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明で、景気や雇用に関する文言を前回時点より上方修正した。これを受けてドル高が進むと、豪ドル/米ドルの下げに連れて豪ドル/円は95.045円まで下落。しかし、2016年末と2017年末のFF金利見通しを下方修正した事や、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が早期利上げに慎重な見方を示した事からドル売りが優勢となり、95.776円まで反発した。
29日	前週27日にギリシャのチプラス首相が「7月5日に国際債権団から提示された支援策の受け入れについて国民投票を実施」と発表すると共に金融支援の延長を求めたが、同日のユーロ圏財務相会合でこの要請が拒否された。ギリシャのデフォルト懸念が一段と高まる中でリスク回避の円買いが強まり、豪ドル/円は取引開始直後に92.659円まで急落。その後はドル/円の反発に連れて94.719円まで反発するなど、神経質な展開となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	20444.54
HIGH	20952.71
LOW	19990.55
CLOSE	20235.73

NYダウ平均

OPEN	18017.82
HIGH	18188.81
LOW	17576.50
CLOSE	17619.51

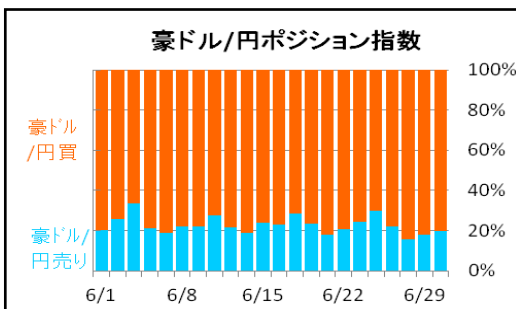
上海総合指数

OPEN	4633.098
HIGH	5178.191
LOW	3847.880
CLOSE	4277.222

豪10年債利回

OPEN	2.7400%
HIGH	3.1590%
LOW	2.6930%
CLOSE	3.0100%

6月のポジション動向



7月の注目ポイント

- ・豪5月貿易収支(2日)
- ・米6月雇用統計(2日)
- ・ギリシャ国民投票(5日)
- ・RBAキャシュターゲット(7日)
- ・豪6月雇用統計(9日)
- ・中国6月貿易収支(13日)
- ・日銀金融政策決定会合(14~15日)
- ・米6月消費者物価指数(17日)
- ・RBA議事録(21日)
- ・豪4-6月期消費者物価(22日)
- ・中国7月HSBC製造業PMI・速報(24日)
- ・米FOMC(28~29日)
- ・主要国株価、国際商品市況

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

RBAの追加利下げ観測がくすぶる中、次の一手を読む上で豪4-6月期消費者物価指数【22日】に市場の関心が集まりそうだ。RBAはインフレ目標(年2~3%)を採用しており、目標下限に接近する低い伸びに留まるようだと、8月以降の利下げを織り込む形で豪ドルが売られる可能性がある。なお今月のRBA理事会について、6月の声明で「政策は当面適切と判断」としたことから、政策金利は据え置かれる公算である。声明文の政策スタンスにも変更がなければ、無風通過もあるだろう。その他、豪州の景況感を確認する上で、5月貿易収支や6月雇用統計を始めとした各種経済指標にも注目したい。

テクニカル面では、5月以降の上伸が週足の一目均衡表の雲の上限に阻まれる中、先月末の下押しにより雲を下抜けた。これにより5月高値(97.298円)が当面の高値となる可能性が高まると共に、目先は下値を試す局面に入った可能性がある。基準線(本稿執筆時点では93.513円)の辺りで下げ止まらないようだと、先月29日安値(92.659円)割れを試す事となるだろう。

その他引き続き、ギリシャ情勢や、米年内利上げ開始観測を受けたドルの動きにも注目したい。(川畑)

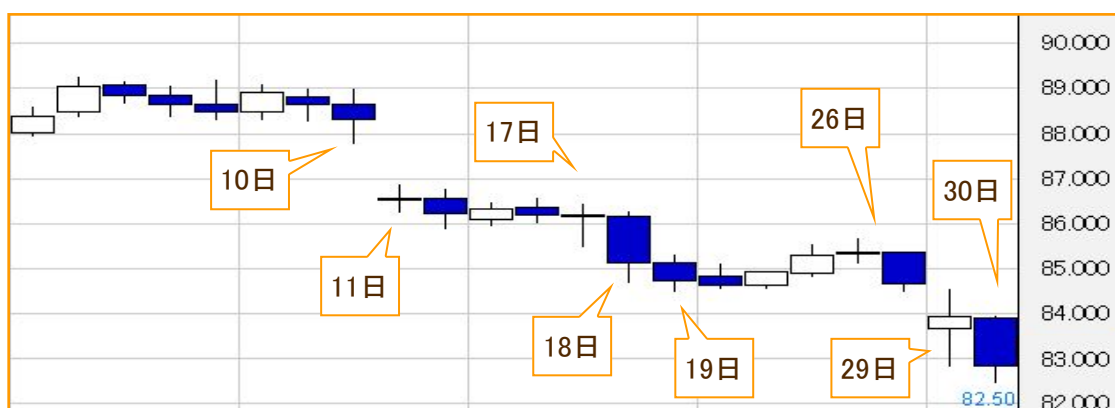
(予想レンジ: 91.700~96.200円)

NZドル/円 6月の推移

NZD/JPY

6月のNZドル/円相場は82.507~89.256円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.0%の大幅下落(NZドル安・円高)となった。

11日早朝にNZ準備銀行(RBNZ)が予想外の利下げを行ったのを始め、声明で追加利下げの可能性について言及した事から、チャート上に窓を開けて下落。その後もNZ1-3月期国内生産(GDP)が予想を下回る伸びに留まった事や、NZドル高をけん制する要人発言が相次いだ事から、窓を埋められずに軟調に推移。月末にかけてギリシャ情勢不安を嫌気してリスク回避の動きが強まると、2014年2月以来となる82.507円まで一段安となった。



四本値

OPEN	88.038
HIGH	89.256
LOW	82.507
CLOSE	82.851

10日	黒田日銀総裁が「実質実効為替レートでここから更に円安はありそうにない」などと発言。これを受けて円買いが強まり、NZドル/円は87.798円まで大きく値を下げた。
11日	事前予想では金利据え置きがやや優勢となる中、RBNZは政策金利を0.25%引き下げて年3.25%とすると発表。さらにウィーラーRBNZ総裁が声明で、経済成長の鈍化や弱いインフレ圧力に言及し、追加利下げを示唆した。これらを受け、NZドル/円は前日終値(88.343円)から2円近く急落して始まると、86.30円前後まで一段安となった。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明で景気や雇用に関する文言を上方修正した事を受けてドル高が進むと、NZドル/米ドルの下げに連れてNZドル/円は85.525円まで下落。しかし、2016年末と2017年末のFF金利見通しを下方修正した事や、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が早期利上げに慎重な見方を示した事からドル売りに転じたため、86.434円まで反発した。
18日	NZ1-3月期国内総生産(GDP)は、前期比+0.2%、前年比+2.6%と予想(+0.6%、+3.1%)を下回る伸びに留まった。これを受けてRBNZの追加利下げ観測が一段と高まり、NZドル/円は急落。イングリッシュNZ財務相の「我々には為替レートがさらに下落する期間が必要」との発言も重石となった。
19日	イングリッシュNZ財務相が「NZドルは一段と下落するだろう」「NZのインフレはRBNZの目標を数年下回っている」「NZドル米ドルの長期的な平均水準は0.60米ドル台前半」等と発言した事を嫌気して、NZドル/円は84.50円付近まで下落した。
26日	RBNZが「NZドルは『不当かつ持続不可能な水準』にあり、一段の上昇は経済への逆風」との見方を示した事が嫌気され、NZドル/円は50銭近く下落。なお、NZ5月貿易収支は3.50億NZドルの黒字と予想(1.00億NZドルの赤字)外の結果となったが、反応は限定的であった。
29日	前週27日にギリシャのチプラス首相が「7月5日に国際債権団から提示された支援策の受け入れについて国民投票を実施」と発表すると共に金融支援の延長を求めたが、同日のユーロ圏財務相会合でこの要請が拒否された。ギリシャのデフォルト懸念が一段と高まる中でリスク回避の円買いが強まり、NZドル/円は取引開始直後に82.864円まで急落。ただ、その後はドル/円の反発に連れて84.542円まで切り戻した。
30日	仕掛け的な円買い・ドル売りを受けてドル/円相場が一時122円を割り込むと、NZドル/円は2014年2月以来となる82.507円まで連れて値を下げた。

NZD / JPY

日経平均

OPEN	20444.54
HIGH	20952.71
LOW	19990.55
CLOSE	20235.73

NYダウ平均

OPEN	18017.82
HIGH	18188.81
LOW	17576.50
CLOSE	17619.51

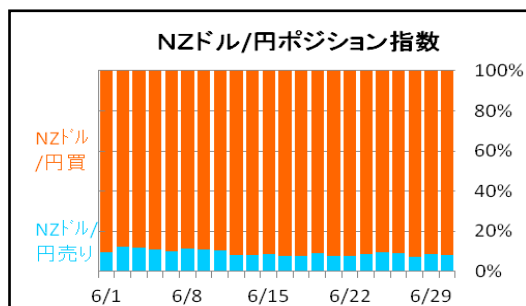
上海総合指数

OPEN	4633.098
HIGH	5178.191
LOW	3847.880
CLOSE	4277.222

NZ10年債利回

OPEN	3.6330%
HIGH	3.9510%
LOW	3.5820%
CLOSE	3.6260%

6月のポジション動向



7月の注目ポイント

- ・NZフォンテラ入札(1日、15日)
- ・米6月雇用統計(2日)
- ・ギリシャ国民投票(5日)
- ・日銀金融政策決定会合(14~15日)
- ・NZ4-6月期消費者物価(16日)
- ・米6月消費者物価指数(17日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(22日)
- ・NZ6月貿易収支(24日)
- ・中国7月HSBC製造業PMI・速報(24日)
- ・米FOMC(28~29日)
- ・主要国株価、国際商品市況

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

先月RBNZが声明で追加利下げについて言及した事で、市場では今月の理事会でも利下げを実施するとの見方が強い。利下げの可能性を読む上で、NZ4-6月期消費者物価(16日)に注目したい。同国のインフレ率について、直近では2回連続でRBNZのインフレ目標下限(年1%)を下回る伸びに留まっている。今回も下回るようだと、NZドル売りの材料となりそうだ。メインは22日の金融政策発表であり、仮に利下げが実施された場合、直後はNZドル売りが強まる可能性が高い。ただ、その後は声明の内容に左右されるだろう。利下げ打ち止めを示唆する文言があれば、材料出尽くしとの見方からNZドルが買い戻される事も考えられる。反対に金利が据え置きが発表されたとしても、声明で当面の間は金利を据え置くとの見方を示さない限り利下げ観測が残るため、NZドルが大幅高となる可能性は小さいだろう。

その他、米金融政策を受けたNZドル/米ドルの動きにも注目である。米連邦準備制度理事会(FRB)が年2回利上げを実施するとの見方が強まるようだと、NZドル/米ドル相場でNZドル売り・米ドル買いが強まり、NZドル/円の重石となる事も考えらる。米連邦公開市場委員会(FOMC)と共に、米経済指標の中でも6月の雇用統計や消費者物価、小売売上高には特に注意したい。(川畑)

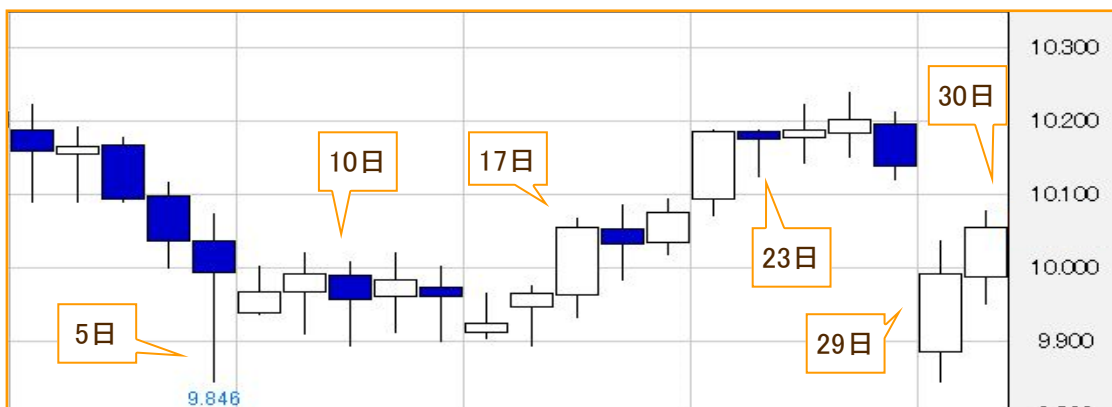
(予想レンジ: 80.000~85.700円)

ランド/円 6月の推移

ZAR/JPY

6月のランド/円相場は9.846～10.240円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の下落(ランド安・円高)となった。

上旬から中旬にかけ、米利上げ観測を受けたドル/ランド相場の影響や、黒田日銀総裁の円安率制発言を受けた円高の影響を受けるも、いずれもランド/円相場の方向感を定める程の影響力はなく、概ね9.80円台～10.20円台でのレンジを形成。その後も南ア準備銀行(SARB)の7月利上げ開始観測がくすぶる中で予想を上回る伸びを示したインフレ率や、ギリシャ情勢の緊迫化によりリスク回避ムードが強まるなどの材料があったが、いずれも決め手に欠けたため、もみ合いが続いた。



四本値

OPEN	10.188
HIGH	10.240
LOW	9.846
CLOSE	10.056

5日	予想より大幅に良好な米5月雇用統計を受けて米年内利上げ観測が高まり、ドル/ランド相場でもドル買い・ランド売りが強まった。これに連れてランド/円は9.846円まで急落。ただ、同時にドル/円相場でもドル買い・円売りが強まったため、売り一巡後は10円ちょうど付近まで反発するなど神経質な展開となった。
10日	黒田日銀総が「実質実効為替レートでここからさらに円安はありそうにない」などと発言。これを受けて円買いが強まり、ランド/円は9.895円まで急落。ただその後、甘利経済再生相が「黒田総裁の発言は趣旨が若干曲解されて伝わったようだ」などと発言すると円売りが優勢となり、9.990円まで下げ幅を縮小した。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)で2016年末と2017年末のFF金利見通しを下方修正した事や、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が早期利上げに慎重な見方を示した事から、ドル/ランド相場でもドル売り・ランド買いが優勢となり、ランド/円は10.067円まで上昇した。南ア5月消費者物価指数は前月比+4.6%と予想(+4.5%)を上回る伸びとなり、また南ア4月実質小売売上高も前年比+3.4%と予想(+2.1%)を上回ったが、いずれもランド/円相場の反応は限定的であった。
23日	南ア1-3月期経常収支が対国内総生産(GDP)比で4.8%の赤字と前回(5.1%の赤字)から低下したが、ランド/円相場の反応は薄かった。
29日	前週27日にギリシャのチプラス首相が「7月5日に国際債権団から提示された支援策の受け入れについて国民投票を実施」と発表すると共に金融支援の延長を求めたが、同日のユーロ圏財務相会合でこの要請が拒否された。ギリシャのデフォルト懸念が一段と高まる中でリスク回避の円買いが強まり、ランド/円は取引開始直後に9.846円まで急落。その後はドル/円の反発に連れて一時10円を回復するなど、神経質な展開となった。
30日	南ア5月貿易収支が50億ランドの黒字と予想(31億ランドの赤字)外の結果となった事を好感して、ランド/円は堅調に推移。その後10.079円まで上値を伸ばした。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	20444.54
HIGH	20952.71
LOW	19990.55
CLOSE	20235.73

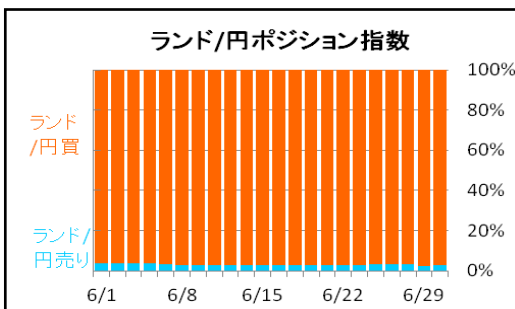
NYダウ平均

OPEN	18017.82
HIGH	18188.81
LOW	17576.50
CLOSE	17619.51

N Y 金

OPEN	1190.60
HIGH	1204.00
LOW	1164.00
CLOSE	1171.80

6月のポジション動向



7月の注目ポイント

- ・米6月雇用統計(2日)
- ・ギリシャ国民投票(5日)
- ・日銀金融政策決定会合(14～15日)
- ・南ア5月小売売上高(15日)
- ・米6月消費者物価指数(17日)
- ・南ア6月消費者物価指数(22日)
- ・SARB金融政策発表(23日)
- ・中国7月HSBC製造業PMI・速報(24日)
- ・南ア4-6月期失業率(28日)
- ・米FOMC(28～29日)
- ・南ア6月貿易収支(31日)
- ・主要国株価、国際商品市況

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

7月の見通し

5月の南ア準備銀行(SARB)理事会(クガニャコ総裁が利上げを示唆し、政策金利決定の投票で6人のうち2人は利上げを主張していた事が明らかとなった)をきっかけに、早ければ次回(7月)の理事会で利上げに踏み切るとの観測が浮上。6月に入ってから、各種の要人発言(2日:SARBが金融政策報告で「物価上昇圧力が高まっているので近い将来の利下げはあり得ない」との見解を示す、4日:クガニャコ総裁が予想物価上振れに懸念を示し、小幅利上げの可能性を示唆)を受けて利上げ観測が一段と高まっている。

SARBはインフレ目標(年3～6%)を採用しており、金融政策発表(23日)の前日に発表される南ア6月消費者物価指数は、利上げの可能性を読む上で重要な手掛かりとなろう。前回(前年比+4.6%)より伸びが加速していれば、SARBの利上げを織り込む形でランドが買われる可能性がある。

その他引き続き、ギリシャ情勢や米年内利上げ開始観測を受けたドルの動きにも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.700～10.400円)